7.　高知県黒潮町からの実践報告

(1)黒潮町教育委員会の取組

畦地　和也　（黒潮町教育委員会 教育次長）

1.防災教育だけでなく、黒潮町の防災に関する全般的な取り組みを説明いたします。「自立・創造・貢献」、これは町の教育振興基本計画の理念です。

3.決算状況を見ると 3.11 後､防災の部分が増えていることがわかります。

4.黒潮町は海岸から松原があって、その後ろに町がひらけている。3.11 後の内閣府の新想定で私たちの町は 34mの津波という国内最大の名誉をいただきました。想像がつきません。そこで、私たちの町でたてた防災の基本理念です。「あきらめない。揺れたら逃げる。より早く、より安全なところへ」

5. 34mの町で犠牲者をゼロにするという目標を掲げ、17 項目の計画をたてています。トップは防災教育・啓発、また学校や保育所等の整備（高台移転も含む）です。

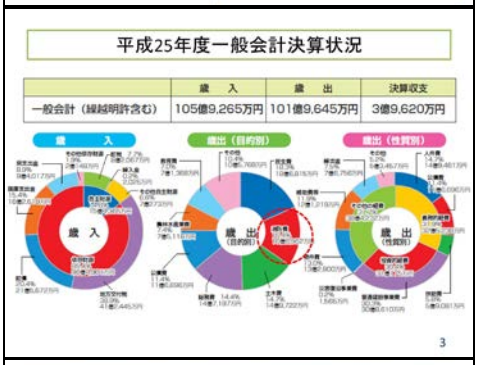
6.当町は 14 分団、消防分団がありますけれども、その 14 分団に職員（保母さん等も含め）がすべて張り付きをしております。

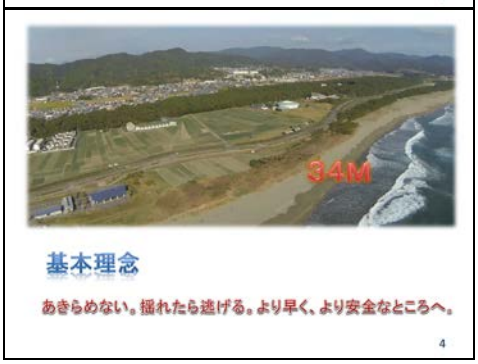
7.張り付いて何をしたかというと、地区の点検をしました。どこに避難路を作ったら良いかという計画を立てていきました。

8.2 年間かけて全戸の避難カルテというものを作成しました。これも職員が全員関わりました。本年度からは 2～3 年をかけて、職員が入りながら地区防災計画をつくっていくという計画を立てております。地区防災計画の目的は、計画を立てることが大きな目的ではなくて、地区の計画を立てることによって、強いコミュニティを作っていくことが大きな目的となります。

9.黒潮町の保育所・小学校・中学校・高等学校の位置です。そのうち赤枠で囲んでいる学校が、浸水が予想されるところにある学校となっています。

10. 3.11 後､防災教育をちゃんとしなくてはいけないと思い、各校に年間 6 回以上の防災訓練、10 時間以上の防災教育ということを義務付けています。もう少し防災教育でも充実したいなということで、2014 年度から片田先生にご指





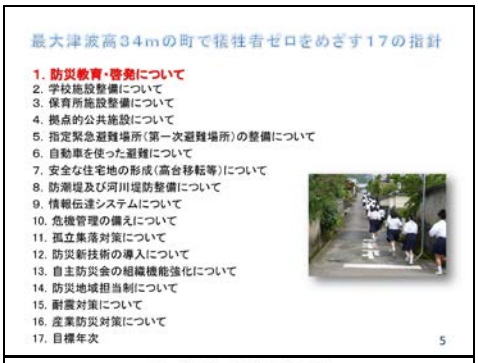
導をいただいています。私は、防災教育で二兎も三兎も四兎も追いたいと思っております。私は教員ではなく行政職の職員なのですが、学校の先生を見ていて、「大変だな」と思います。教育委員会から「あれ出せ、これ作れ」とかいろんなものがでますし、無理難題を言う保護者はいますし、学級の運営を混乱させるような特性を持った子がいますし、その上に防災教育をプラスしてやることは無理でしょう。しかし、だからこそむしろ「防災教育をしなければならない」という思いがあります。それは学校では学力向上、いじめの解消とか、生きる力とか解決力をつけなければならないと言っているのですが、防災教育で一気にできないかなという思いがあります。ですから、学校が忙しいからこそ学校の先生には防災教育をやっていただきたいというのが私の思いであります。

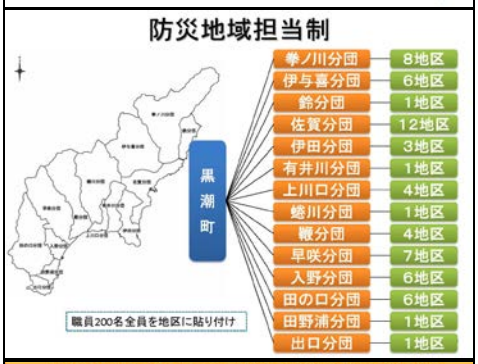
11.各学校では避難訓練をしております。これは佐賀地域の保育園・小学校・中学校が隣同士で 3 つ並んでおりまして、保育園が一番避難場所に遠いです。左の下の写真見てもらいますと、保育園の子が逃げていっている方向と逆方向に中学生が走っています。これは保育園の子を迎えに行っているという図になります。

12.別の小学校では、週に一回、運動も兼ねて裏山に逃げる避難訓練をやっております。裏山に逃げたら裏山から海に向かって「おーい」と叫ぶというのをやっております。

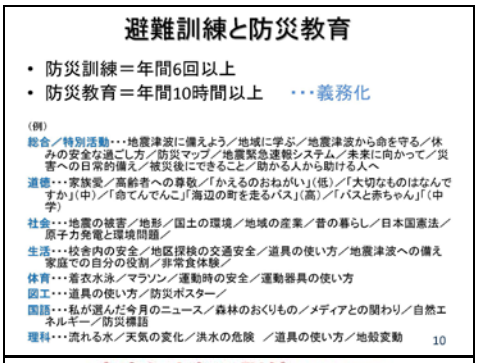
13.あきらめない町の取り組みです。34mという非常にありがたい称号をもらいましたので、これをマークに我々の町では缶詰事業を始めました。34M マークの缶詰です。

14.来春から良品計画（無印良品）にて一斉販売されることに決まりました。全国で 380 店舗あるそうです。ですから一つの店で一日 2 個 3 個売れれば一日 1000 缶売れるということになります。ところがこの工場は今、一ラインしかなくて一日 700 缶。MAX で 1000 缶しか出来ません。来年度のオーダーが 10 万缶、非公式に 50 万缶ということでどうするのだということですが、ラインをもう一つ増やす予定です。来年見かけたら買っていただきたいと思います。つまり、34mの称号をいただいたというマイナスと、人口も減って町に産業がないというマイナス、そのマイナスとマイナスをかけるとプラスができました。これはまちづくりにとって重要な点だったと思います。なぜ無印良品さんだったかというと、「いつものもしも」というテーマで防





災をテーマにした商品展開をされております。そういうことでこの商品とタッグが組めることになりました。

15.あきらめないというテーマでの町民の例です。左の写真は私の同級生のお母さん 85 歳の方が 2 年くらい前の文化展に出していた色紙です。ちょっと諦めが感じられるような短歌です。しかし、右の写真は今年 11 月の文化展にだしていた短歌です。85 歳になっても逃げるんだということが徐々に町民のみなさんにも浸透していただいているのかなと思います。

16.我々の町は非常に海に恵まれた町です。カツオもおいしい。こういう恵みを子どもたちに教えながら、享受しながら生きていきたいと思っております。